

平成 28 年度広島県派遣研修生グアナファト交流事業 報告レポート

井山明日香

このたび 2016 年 10 月 13 日から 16 日までの 4 日間、グアナファト州と広島県の友好関係を深めるためにグアナファトへ研修に行かせていただきました。過密スケジュールではありましたが、非常に充実した研修となりました。この研修において特に印象深かったことをいくつか報告いたします。

1. マツダメキシコ工場見学とグアナファト大学学生との意見交換

今回広島アミーゴ会のご厚意でマツダメキシコ工場を特別に見学させていただきました。そしてグアナファト大学の生徒にも同行させていただきました。



マツダメキシコ工場は 2014 年から量産を開始し、現在では年間 25 万台を生産するほど大きな工場となっています。フル稼働時には約 5,200 名の従業員が働いており、この地域の経済活動にも十分貢献していると言えるでしょう。またこの地域には自動車産業の経験者は少ないものの若い人材が豊富で、さらに彼らは教えられたことを真面目に実施する気質を持っているそうです。そしてマツダは特に人材育成に力を入れており、メキシコ人の幹部候補生を日本で研修させ、日本の技術者を派遣し体系的な人材育成プログラムを実施することで高品質なクルマの生産を目指しているそうです。マツダのメキシコに対する熱意と現地の人々の気質が上手くマッチしてこの工場は急激に成長しているのだと感じました。

そして工場を見学した後、マツダの進出が町にもたらした影響についてグアナファト大学の生徒と意見交換を行いました。良かった点としては現地の雇用増加や日本に対する親近感が増したことなどがあげられました。彼らは日本に対して非常に興味を持っていて将来は日本で働きたいと言っていました。一方、悪かった点として挙げられたのは、工場で働くことによって家族と過ごす時間が減ったということでした。私の主観かもしれませんがメキシコ人は日本人よりも家族のことを非常に大事に思っています。そして家族で過ごす時間を生活のなかにおいて重要視しています。工場で働くとなると夜勤など様々な勤務時間で働くことになるでしょう。これまでと異なる生活リズムを強いられるということです。労働と家族に対する価値観の違いによって少し摩擦が生じているのではないかと感じました。しかし、やはり悪い点よりも良い点が多く挙

げられマツダがグアナファトにもたらした影響は多大なものであると実感しました。

2. グアナファト補習校見学

この施設は現地の学校に通う日本人子女に対して日本の教育課程の進度に合わせて日本語による教育を実施し、帰国後日本の学校に円滑に適応できるようにと設立されたもので、地域の日系企業と地域在住の日本人で運営している週末補習校です。現在小学一年生から中学二年生まで 114 名が在籍しているそうです。運動会の練習や授業を見学させていただきましたが、その光景は日本と変わらないものでした。父兄の方もおっしゃっていましたが、同世代の子と日本語で思いっきり話ができる環境があるというのは慣れない環境のなかで普段生活している生徒にとって非常に良いことだと感じました。

3. 自由課題

グアナファトの美しい街並みを一望できるピピラの丘へ行ってきました。



中世ヨーロッパの面影を残すこのグアナファト

は、町全体が世界文化遺産に登録されていて非常に美しい景色が広がっていました。グアナファトは 18 世紀に世界の 3 分の 1 の銀を産出したことによって町に富がもたらされこのような素敵な町が建設されました。私たちが訪れたこの時期には国際セルバンテス祭が開催されていて、町中に音楽や舞踊、演劇が催され非常に賑わっていました。普段私が滞在しているメキシコシティよりも空気がきれいで美しい街でした。

最後になりましたが、今研修に携わって頂いた県庁の担当者をはじめ、現地コーディネーターや関係者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。これを機に、広島とグアナファトのさらなる交流発展に携われたら良いなと思うようになりました。またグアナファトを訪れようと思います。